

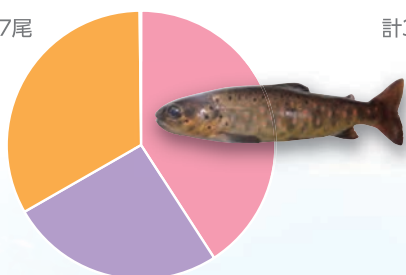
②釣獲日誌で漁場の状態を知る

釣獲日誌は漁場のカルテ

～栃木県鬼怒川漁協日光支部と地元釣り人による釣獲日誌の活用例～

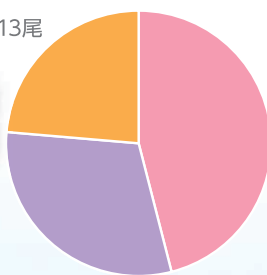
2020年 聞き取り調査(350名)

計607尾



2020年 釣獲日誌(5名)

計313尾



■ ブラウントラウト ■ ヤマメ ■ イwana

図10 2020年に釣獲された魚種の割合

2021年 釣獲日誌(20名)

計512尾

増加

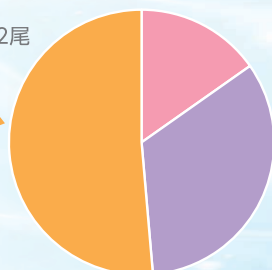


図11 2021年に釣獲された魚種の割合

● 350人への聞き取り調査と、わずか5人の釣獲日誌の結果がおおむね同様となりました(図10)。

● 釣獲日誌の結果、この漁場で**最も多く釣れた魚**がブラウントラウト(**外来魚**)であることがわかり、速やかに除去活動を開始しました。

● 翌年には、外来魚除去活動の効果が釣獲日誌の記録から明らかとなりました(図11)。

まとめ

少人数で作成した釣獲日誌でも
「漁場の変化を**発見**、すぐに**対策**、効果を**実感**」
につながることが期待できます。

一歩進んだ管理を目指す！

お ころ がわ

～栃木県黒川漁協小来川支部と釣り団体
「小来川の日光テンカラをつなぐ会」による釣獲日誌の活用例～

- 魚に標識(ひれの一部を切除)をしてC&R区間へ放流
→釣った魚の標識を確認して釣獲日誌に記録しました。

2022小来川釣獲日誌 調査地図



記入例

5/19(日)

13:00-16:00

場所①

ヤマメ 18.5cm ひれあり

ヤマメ 20cm ひれあり

場所②

ヤマメ 10cm ひれあり

ヤマメ 13.5cm ひれ切除

5/26(土)

13:00-16:30

場所④

ヤマメ 18cm ひれ切除

場所⑥

ヤマメ 28cm ひれ切除

イワナ 18.5cm ひれあり

図12 釣獲日誌の様式と調査区域

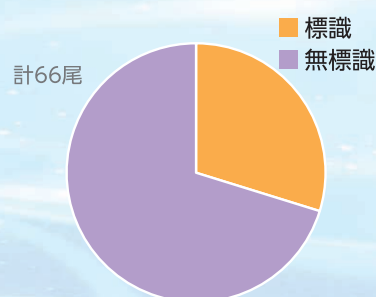


図13 一般漁場での標識魚と無標識魚の割合

- C&R区下流の一般漁場では、釣れた魚の約3割が標識魚でした。

→C&R区から一般漁場へ魚が供給されることがわかり、C&R区を利用しない釣り人からも理解が得られるようになりました。

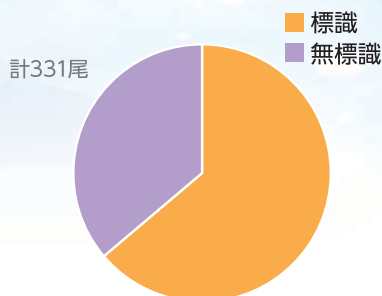


図14 C&R区間での標識魚と無標識魚の割合

- C&R区では、釣れた魚の約4割が無標識魚(野生魚)でした。

→漁場への野生魚の貢献がわかり、野生魚の個体数の維持・増大へ向けた管理に目が向けられるようになりました。

③川の巡回や看板設置で 漁場を見守る

川を守る 地域の目

～栃木県黒川漁協小来川支部と小来川地区住民の取り組み例～



- 栃木県日光市小来川地区では、**地域住民**による発見と漁協への通報により、禁漁区の違反者を取り締まることができました。
- 漁協組合員が地域住民の所有地での違法な山菜採集を注意するなど、双方が協力して川や地域の監視を行っています。

釣り人同士の相互監視・禁漁期間中の監視

～栃木県おじか・きぬ漁協三依支部と釣り人の取り組み例～



- 栃木県男鹿川支流では、看板(左写真)を見た**釣り人**からの通報によってC&R区での魚の持ち帰りを取り締まることができました。
- C&R区の設置で川に魚が残るようになり、秋には溪流魚の産卵行動を観察するために川を訪れる人が増え、**禁漁期間中**の違反者の発見に役立ちました。